



### 3. 推薦区分 \*

推薦区分を以下から選択してください。

- 自薦
- 他薦（推薦者）※専任教員
- 他薦（被推薦者）

### 自薦/他薦（被推薦者）

エントリー期間：2026年1月5日(月)00:00 ～ 2026年3月31日（火）23:59

### 4. 授業科目名 \*

申請する授業科目名（※2025年度開講）を入力してください。

キャリアデザイン・ワークショップII

### 5. シラバス（URL） \*

申請科目のシラバスURLをご入力ください。

<https://portal.tku.ac.jp/syllabus/public/pubShowSyllabus.php?sno=181479&rlcd=12197-001&mt=0&year=2025>

## 6. 該当する達成基準 \*

申請科目が該当すると考える達成基準を以下から選択してください。

※複数回答可

- 全学や学部の3ポリシー実現に寄与する取り組み
- 授業実践における課題への取り組み
- 学修者主体の教育への取り組み
- 本学の教育の質向上に資する取り組みであり、他の授業の参考となる取り組み

## 7. 教育実践の目的・目標 \*

申請科目を通じて目指す教育目標をご入力ください。

- ・当該科目における受講生の到達目標（アクティブ・ラーニング／PBLを通じた主体性、問題解決能力、コミュニケーション力の獲得・向上）の高質な達成
- ・当該科目に関わる「授業サポートファシリテーター」（後述）の主体性向上と自身のリーダーシップスタイルへの気づき醸成とその獲得
- ・キャリアデザインプログラム（CDP）内における、学年を超えた交流と相互作用によるラーニングコミュニティの生成

## 8. 取り組み内容 \*

申請科目における、独自の工夫や先進的な取り組みの具体的な内容をご入力ください。

当該科目はアクティブ・ラーニング型の授業であり、具体的な課題をチームで解決していくPBLの形で進めている。ゆえに、受講生が自らの発露で課題解決に向かっていく「場」を醸成することが極めて重要となり、指導者／評価者という特性がある教員とは別に、受講生と違う立場・視点で受講生をファシリテートする上級生が授業に加わることが有効なのではと考え、当該科目に「授業サポートファシリテーター」というスチューデントアシスタント（SA）を独自に組成・導入した。メンバーは、前年に当該科目を受講していたCDP出身の2年生10名前後を、自薦および教員推薦で選抜している。

この「授業サポートファシリテーター」は、アクティブ・ラーニング型授業のSAということで、従来からある教員補助的なSAとは異なり、受講生と一緒にメンバー自らも自分たちのやり方やあり方を考え、悩み、また授業自体を進行していく経験までしてもらうことで、受講生およびメンバー本人の成長を図るものとした。

具体的には、事前に活動内容のガイダンスとファシリテーションに関する基本的なナレッジ提供を行ったあと、当該科目実施（2期）前に、1期の別科目（「キャリアデザイン・ワークショップI」「フレッシュアーズセミナーa」※いずれもアクティブ・ラーニング型授業）にて、受講生のグループディスカッションを促進するグループファシリテーションを経験する。その上で2期の当該科目にて、授業内容を進める進行ファシリテーションを分担して担当する。進行担当のファシリテーターには、簡単な進行マニュアルを事前に配布し、前年自分が受講した内容を振り返りながら、授業の進行計画を立て、進行に臨む経験をすることになる。そして近年は、翌年度（メンバーは3年次）の1期の授業「キャリアデザイン・ワークショップI」にて、その年度に新しく「授業サポートファシリテーター」になった新2年生のメンバーと一緒にSA活動に入り、再び進行ファシリテーションを行うことで、活動の総決算を行っている。

また、こうした授業内実践を補足する形として、授業期間中に2週に1回の頻度で、メンバーおよび教員での「振り返りミーティング」を1限分の時間を使い実施。自分の実践から生まれた気づき、学び、問いや迷いをメンバー間でフラットに話し、所感を率直に交換することで、さらに気づきや学びの定着、問いの深化を図り、次回の実践につなげていく仕掛けとしている。そして、各期の最後には、活動全体を振り返り、自らの変化・成長を確認するとともに、次期にむけた自らの課題や目標を顕在化している。

## 9. 具体的な成果 \*

取り組みを通じて得られた具体的な成果をご入力ください。

成果を以下3点に分けて説明する。

### <受講生>

授業内のリアクションペーパーなどには、先輩たちからの助言で停滞していたグループディスカッションが促進されたことや、全く別の視点で考えることができたなどの声が多くあがっており、「授業サポートファシリテーター」の活用によって、授業内における受講者の不安や戸惑いが解消され、より能動的に課題やグループディスカッションに取り組むことに繋がり、到達目標である主体性／問題解決力／コミュニケーション力の向上に寄与していると考えます。

また、受講生にとって「授業サポートファシリテーター」の存在がロールモデルとなり、来年度以降、自分のファシリテーターをやってみたい、と意欲的な成長を志向するきっかけとなっており、科目内で醸成された主体性が継続的に向上していくきっかけとなっているとも考えます。

### <授業サポートファシリテーター>

都度行っている振り返りミーティングの発言などから、まず、指導したり正解を言うのではなく、自分自身も悩みながらも、受講者の発言や思考を促進していくファシリテーション力の向上が見られた。また、まさに「教える側が一番学ぶ」という法則通り、1年前に受講した当該科目の内容（問題解決のプロセスと実際）のさらなる理解深化が伺えた。

一方、振り返りミーティングにて、自身のファシリテーション活動で生じた戸惑いや成長を、他のメンバーとのフリーダイアログで振り返ることで、自らの特徴に気づき、認め、自身のリーダーシップスタイルを確立していくことに繋がっていった。こうした、自分らの活動の意味を探求していった自己理解の結果は、対外的なプレゼンテーションとして【第3回キャリアデザインフォーラム】（2024年10月30日 大倉喜八郎進一層館Forwardホールにて開催）の実施へと発展することとなった。

また、本活動には単位付与や金銭的な対価がないが、それでもメンバーが能動的に参加している背景には、活動を通して自らの成長実感を得られることがあるとみられ、社会との健全な関わり方を体感を通して学ぶ機会になっていると思われる。

### <CDP全体>

#### ・ラーニングコミュニティの醸成

この「授業サポートファシリテーション」活動は現在、3年次1期の「キャリアデザイン・ワークショップI」まで続き、一つ下の学年の「授業サポートファシリテーター」と協働で授業進行・ファシリテーションを実施しており、2022年度のスタートからこれまで49名が参加している。ロールモデルの先輩と一緒に授業設計を試み、実践するプロセスで暗黙知的なナレッジの移管が学年を越えて行われており、異学年で学びが連鎖していく共同体が生まれ、CDPにタテのつながりを活かした成長の場が生じてきている。